

# 金子翁を偲びて

高教一

た。此れでも段々と苦しくなり、鈍鉄薄鉄板の研究をやった。

私は、大正四年六月鈴木商店に入社し、鈴木化学試験所に就職した。其の翌日水素圧縮タンクが大爆発事件がありました。漸く同所でモナザットサンドの分解試験等の研究を村橋様から種々指導を受けて、セリウムとトリユウムの分離は一応出来たが、発火合金の試験にかかる中途で、日本金属大里精錬所に欠員が出来たので、至急其の方に行かねばならん事になったので、残念ながら発火合金の研究は中止の止むなきに至り、高尾君と共に大里工場に行き電気分銅を担当することになったが、原料一厘錢の、支那からの輸入が出来なくなつた。従つて工場閉鎖の止むなきに至り、沢山の従業員を整理をやつた。而して日比製錬所からの粗銅も段々と減少した。其の当時、八幡製鉄のストライキ、熔鋼炉の火は消えており、(浅原健三氏)従業員と別れるのはつらい。何とか立直るべく、薄電気銅板の仕事もやっ

金子様から一日一屯の製産設備を申込れたが、一日一屯と云えば莫大なる設備をせねばならん、既に退脚の準備が遅いのと、研究は不充分で、なかなか出来そうもない。其の研究中に、右の手に大火傷をしたので誠に申訳はないが勇気が無くなったので残務整理を大休して後は福岡工場長にお願ひして、兵庫製油所に転任する様に、人事課で計つて貰ひ、兵庫工場の煤触法に依る水素瓦斯製造の係をやつて居つたが、或日久保田工場長と呼ばれ、大叱咤を受けた。「此の問題は或る人の讒言であつた」不愉快の日々を過した処二階堂氏からニッケル触媒の仕事をやつて呉れないかと相談を受けた。相方とも条件が出来た。此の問題に早速かかった。私は金子様のお話は常々聞いた、然しお会いする機会もなく過して居つた。

に、事務所の小使爺さんが(好々爺さんであつた)其のお爺さんが高さん高さんと大声で呼んで居つたが、私が顔を出すで大変大変と私の側に来て早く来て下さいと云うので、何事か判らないが、私は硫酸でポロボロになった作業服の儘外に出て見た。すると金子様が私を訪ねて来られたとのことで、私も驚いて其の儘事務所の方に行く途中で、金子様にピッタリ逢つた。高様は貴下かと突然の訪いに私は左様です、私も少々堅くなつた様だつた。「ニッケルが出来たそうですが見せて下さい」と云われたので、結晶槽から緑色の美麗なる結晶が、ツララの様に鉛板の儘を御覧に入れた。金子様は屋外に出て、顔を斜にして暫く見て居られたが、帽子の横に穴の開た中折帽左手で取つて、丁寧に御じぎをして何回も有り難うと云われたので、私は恐縮した。此のニッケルには私は随分泣かされました。此れで硬化油工業が事業化される、而し私は今までニッケルの輸入には苦心致しました。それからの見透は何如と質問せられたので、私はスペントニッケルの放置しある約一〇〇屯近くあるかと思はれる所に案内して、もう少し設備の改善をすれば兵庫工場の副原

料の購入する事はいりません事を申上げたので非常に喜んで、私の手を取つて宜しく頼みますと何回も申された。斯様に喜んで貰つて私も先に久保田工場長に叱られた事を忘れて、此の工場には研究改善すべきことが多いのでどしどしやる気になつて、久保田工場長も私を非常に信用して下さつて未解決の問題を次々と相談せられた。

次は電解槽の問題等も改善することとしてやつて居る内に、関東大震災が起つたので、程ヶ谷工場は全壊したので、王子工場に硬化油工場を建設することとなり、又私にその大問題を命ぜられたので東京へ移住することとなつた。

金子様は近代稀なる偉大なる事業家であるが惜むらくは技術家や遇する暇がない。而して心理を掴むのが充分ではなかつた様に思われる。村橋様や久保田様とも後世には意気が投合していなかつたのではなからうか。鈴木商店にも遺憾である。

久保田様が欧米を視察の機に買つて来た模形ホットプレスが雨曝になつて居つた、二三人の技術家が此の活用に向つたが、皆サジを投げて居つた。久保田様から私に相談があつたので研究にかかつた。其の頃久

保田様は金子様に相談し、銅製油脂分解用オートクレーブを播磨造船に注文したので引き取る事になつたが設置工場を赤煉瓦の倉庫を工場に使用することとなり、設置基礎も出来オートクレーブも入荷したので、設置し附属装置も注文して居つたので分解プラントが出来た。而してリッリン濃縮装置も田中機械から入荷し運転中に真空ポンプに事故があつた、其の当時田中機械には労働争議があつてセットボウトを忘れて居るから早速修繕して貰つたが、悪いので全く困らされた。

日沙商會は明治四十年代からサラワク王国内に、広域のゴム園を領有し、多数の邦人を送り、栽培、製産、輸出と同社百年の計を建てていたが、太平洋戦争勃発とともに一大転換を強いられた。占領政策により過去のゴム一辺倒から、新しく水銀、錫、石炭、ダイヤ、木材、スカッチ染料其他の重要開採事業を一任されたからである。

金子様の事業熱の旺盛なものには敬服の外はありません。謹んで故人の御冥福を御祈りして止みません。

## サラワク現地の哀歎

北ボルネオ水銀鉱山と炭坑

宇津木 亥一

脂脂肪酸のパイロット工場も出来たので、オレイン酸研究を初め、試験品一屯製造して日本毛織で紡毛油の試験を始め、此れも使用可能なることを確認せられ売買協約もほぼ出来る様な段階にまで進んだ頃、金子様は時の農商務大臣は日本グリセリン会社のグリセリンの助成金問題を打ち切問題があるので、政治問題が起り日本グリセリンを合併し全日油脂グリセリン工業株式会社設立せらる様になり且つ合併の速進剤となつたのである。

私に後には佃工場に勤務中のことであるが、化粧用ステアンの製造す

く来た、いま陸軍省から書類が来たから、これを至急神戸へ届けるように」という。それから再び東京へ着いた。使命は別にあつたのですが始めは化された感じである。しかしこれが鈴木式だつたと思ひ出した。大鈴木はなやかりし時代何時でも何処へでも直ちに意向し得る心構えの雰囲気のうちで育つた。そして遂に或る日、赤電一本入るや否や、ストラバヤへ行くか、行くなら一週間以内にも立って欲しいと云い含められた。もう輸出部では「北野丸」のキヤビンが予約されてあつた。大正十一年夏の話です。

開戦にのぞみ北ボルネオ攻略に向う陸軍船団の誘導を大関雄只さま以下幹部数名が引きうけられた。大し

たトラブルも無くミリ敵前上陸は取行され、クチン沖にさしかかると、「香取丸」などは撃沈され犠牲も出たが文字通り疾風迅雷の占領であつた。その功勞に酬いる為、現地占領事業の主要部分は殆んど「日沙」の手中に歸した。他社は後を追つて来たが、とてもその比ではない。

その主要産業の第一が水銀であつた。銃砲弾発火に必駆欠くべからざる貴重な物資を、わが社がテゴラ、ガデンの廃坑を復活して遂に月産数屯を採取して見せたのだから、軍の喜びは並み大抵ではない。貴重「水銀」は毎飛行便で内地へ護送された。

現地へ着いてから私は幾度となくテゴラ、ガデンを見学し、また或る時は資金源である南方開発金庫のお偉ら方はじめ色々のお客さまを視察に案内した。

英国は此処で水銀を採取したが、すでに取り尽し採算不能に陥り、遠い過去に山を捨てた。わが方はその記録をもとに、採算無視の採掘である。私が始めて暗い坑道に入った時には、生水銀の珠がコロコロと手に触れた。比重の高い水銀は辰砂としてあらゆる土壌、砂礫を貫し段々と深処へ向け沈潜し行き、ついに岩盤

私に後には佃工場に勤務中のことであるが、化粧用ステアンの製造す

る。翌朝万平ホテルへ着くと「よ

ら直ちに東京へ」と汽車切符を渡される。翌朝万平ホテルへ着くと「よ

ら直ちに東京へ」と汽車切符を渡される。翌朝万平ホテルへ着くと「よ